

フラガール

希望の虹

変わらぬ、瞳を。

フラガールの学び舎である「常磐音楽舞踊学院」は、今年で創立60年を迎えました。日本で最初のフラダンス、ポリネシアン民族舞踊学校として、これまで428名のフラガールを生み出してきました。

「フラシティいわき」を掲げる本市にとって、その象徴ともいえるフラガール。炭鉱と家族を救うために立ち上がった第1期生フラガールの精神は、半世紀以上が経った今もなお、脈々と受け継がれています。

映画「フラガール」から18年。本特集では、さまざまな苦難を乗り越え、進化を続ける彼女たちの今を伝えるとともに、いわきが持つ誇り高きフラ文化の魅力をお届けします。

幕末の安政3（1856）年、みろく沢（内郷）で発見された石炭層。その翌年から採掘が始まり、常磐炭田は、本州最大の炭田として、明治・大正・昭和中期にかけて国のエネルギー需要を賄う基幹産業へ発展し、日本の近代化と戦後復興を支えてきました。しかし、昭和30年代になるとエネルギー革命によって石炭から石油へと移行し、石炭産業の斜陽化とともに、炭鉱の閉山が相次ぎました。この窮地を救うため、石炭を掘るたびに湧き出てくる温泉を活用した日本初のテーマパーク「常磐ハワイアンセンター」（現スパリゾートハワイアンズ）が昭和41（1966）年に誕生。この年は、5市4町5村が合併して「いわき市」が誕生した年と同じでもあります。

炭鉱から観光へ、杜運を懸けた一大プロジェクト。その目玉となったのが炭鉱の少女たちによる「ポリネシアンショー」。そのダンサーを養成するための学校として昭和40（1965）年に設立されたのが「常磐音楽舞踊学院」です。

国のため、いわきのため、家族のため、さまざまな苦難を乗り越えてきた先人たち。その思いを受け継ぎ、フラガールたちは今日も舞台上に立っています。



▲オープン当時の常磐ハワイアンセンター



▲第1期生フラガールのレッスン風景



▲初代理事長の中村豊氏と第1期生フラガール

常磐音楽舞踊学院の歩み

昭和19年	常磐炭礦株式会社設立
昭和39年	常磐湯本温泉観光株式会社設立
昭和40年	常磐音楽舞踊学院設立
昭和41年	常磐ハワイアンセンターオープン
昭和42年	女子音楽科を新設
昭和43年	学校教育法に基づく各種学校として福島県知事の認可を受ける
昭和44年	歌謡科（歌謡曲・民謡）を新設
昭和46年	NHK紅白歌合戦に出演
昭和51年	常磐炭礦、全面閉山
平成2年	スパリゾートハワイアンズへ名称変更
平成18年	映画「フラガール」公開
平成23年	東日本大震災により休館
平成24年	「フラガール全国きずなキャラバン」スタート
令和元年	全館営業再開
令和3年	「フラガール全国きずなキャラバン2021」スタート
令和6年	映画「フラダンス」公開
令和6年	創立60周年
令和6年	「フラガールきずなスクール2024」スタート

A L O H A の 精 神

フラガールが大切にしている精神があります。皆さんもよく耳にするALOHA（アロハ）という言葉。

A（アカハイ）：優しさ、L（ロカヒ）：調和、O（オルオル）：心地よさ、H（ハアハア）：謙虚さ、A（アホヌイ）：忍耐の意味を持っており、この気持ちを抱き続けることで、自分にも他人にも愛情を持って大切にする、という精神です。

とても短い言葉ですが、たくさんの想いと奥深さが詰まった素敵な言葉です。



夢

憧れのあの舞台へ

スタートライン。

今春、60期生として厳しい選考を乗り越えた5名が、常磐音楽舞踊学院に入学しました。彼女たちは、スパリゾートハワイアンズダンシングチームのメンバーとしてショーに出演しながら踊りの基礎を学びます。

学院のレッスンでは、フラやタヒチアン等、ショーで披露するダンスだけでなく、ジャズダンスやクラシックバレエなど、フラガールに必要なさまざまなジャンルのダンスを学びます。また、ステージマナーや礼儀作法など、踊り以外の科目を履修することが創設以来の学院の伝統となっており、踊りの技術を磨きながらフラガールとしての所作を身に付け、プロのエンターティナーとして成長していきます。

「まず、自分を愛してください」

常磐音楽舞踊学院最高顧問で、開校当初の1期生から現在も指導を続けているカレイナニ早川さんがフラガールたちに贈っている言葉です。

自分を愛することで、繊細さ、敬意、そして情緒が表現され、視覚的な美しさだけでなく、言葉を超えて心に響くような感動を与えることにつながるという教えを伝え続けています。

デビュー。

7月に迎えた60期生たちの夢の初舞台。A L O H A の精神とともに、ひまわりのような明るさでデビューを果たしました。

幼いころからずっと憧れていたフラガール。その「夢」を諦めることなく追いつけてきた彼女たち。その陰には、長い間そばで応援し、支え続けてくれた大切な家族や友人たちがいます。

フラは感謝の表現でもあります。彼女たちの踊りからは、フラに出会えた感謝、支えてくれた愛すべき人々への感謝、何よりも夢の舞台に立っていることへの感謝の気持ちが伝わってきました。

彼女たちのフラガールとしての歩みはまだ始まったばかり。たくさんの感動と希望、そして元気と勇気を、このいわきから多くの人々に届けてくれるでしょう。



▲60期生の初舞台



▲初舞台を見守る様子



常磐興産株式会社
営業企画グループ

小室 美咲さん

第18代
スパリゾートハワイアンズ
ダンシングチーム
キャプテン

私は、昨年9月にダンサーを引退し、現在は、常磐興産(株)の広報担当として充実した日々を送っています。

フラは、思いや感情を「言葉」ではなく「身体」で表現するので、観客の皆さんとダンサーとの心のつながりができる素晴らしい踊りです。また、先輩方から受け継いだ伝統と技術を次世代につなぎながら人として、フラガールとして成長し、一人一人の個性となって「踊り」に表現されています。



60期生

RINKA

福島県出身

学院でのカリキュラムには慣れてきましたが、うまく踊れず悔しくて涙が出てしまう日もあります。そんな時は同期と励まし合いながら一つ一つクリアしていきます。

フラガールは、何の取り柄もない私に夢を与えてくれた存在です。どんなに苦しい時でも笑顔を絶やさず、60年の伝統をつないでいけるフラガールになりたいです。



60期生

YUMENO

茨城県出身

小学1年生の時、先輩方の温かい笑顔や美しい踊りに惹かれ、フラガールへの夢を抱きました。

幼い頃から大好きなフラをずっと続けさせ、夢を応援してくれた家族に、心から感謝しています。フラガールに出会い、大好きなフラを仕事にできたことは、私の人生において宝物です。憧れの存在だった先生方に教えていただけることもとても幸せです。



60期生

NOZOMI

東京都出身

震災やコロナ禍など、自らが大変な時でもずっと踊り続けてきた先輩方がいたからこそ、私たちは60期生として学院に入学できています。

デビューステージでは、これまで支えてくれた家族や友人、たくさんのお客様に感謝の気持ちを込めて、同期との絆を感じながら踊ることができました。これからも「心に響くフラガール」を目指し、精進してまいります。



60期生

MIMI

埼玉県出身

スパリゾートハワイアンズの歴史には、さまざまな困難や苦難があったと学びました。これまで長い間、大切に守り抜かれてきたこの場所で、フラガールとしてフラの魅力を伝え、次の世代へ引き継いでいきたいです。

辛いことがあっても、同期で互いの苦手なことを教え合ったり、一緒に乗り越えていくことができる、そんな仲間に出会えたことも幸せの一つです。



60期生

MOMOKA

埼玉県出身

フラガールになるという夢は、小学5年生の時に初めてショーを観た時から1度も変わりませんでした。大好きなこの場所に毎日いられることが本当に幸せです。「誰からも尊敬され、踊りも笑顔も心も美しいフラガール」を目標に、今後も努力を重ねていきます。「一山一家」という言葉にもあるように「Ohana」の絆を忘れずに、いわきの地で頑張っていきます。

スパリゾートハワイアンズ ダンシングチーム キャプテン

フラガールたちの精神的な支柱ともいえる存在。60年という長い歴史の中でキャプテンを務めたのはたったの19人。

ダンスの実力はもちろん、ダンシングチームをまとめるリーダーシップや指導力など、さまざまな器量が求められます。



第19代キャプテン みのり マーラエ穂里さん

自分たちが生まれる前から続くフラガールの歴史は本当にすごいと思いますし、その1ページに微力ではありますが、携われていることをとても光栄に思います。

創立当時から現在も指導し、師としているカレイナ二早川先生のお言葉は力強く、芯があり、伝統を守り続けてきた説得力があります。フラガールたちには、この先もずっと大切にやり続けてほしいと願っています。

フラの魅力は、手の振り付けのハンドモーションで曲の歌詞の意味、感情を伝え、そこに自分の表情や表現でより豊かなものにできるところです。踊りにゴールはな

く、追求していけばいくほどおもしろい魅力があります。

キャプテンになり、より多くのメンバーと深く関わることができたと思っています。責任が重圧と感ずることはなく、背中を押してくれていると考えるようにしています。

フラガールは、私に夢と希望を与えてくれた存在です。その憧れていた先輩方がたくさんの方と紡いできた絆。私も皆さんに笑顔や元気をお届けできる希望の存在になれていればうれしいです。また、ショーを観た子どもたちに夢を与え、未来のフラガールたちとの懸け橋にもなりたいです。



絆

全国に笑顔。

2011年、東日本大震災によってスパリゾートハワイアンズは休館を余儀なくされ、フラガールたちは踊る場を失いました。

自らも被災し、日本中が大きな悲しみに包まれる中、彼女たちは「涙」ではなく「笑顔」を選び、前に進み出しました。

原発事故の風評被害にあえぐ故郷いわき市、福島県を復興させるため、自分たちの元気な姿を見せるため「フラガール全国きずなキャラバン」をスタート。避難所やイベント会場など全国26都府県と韓国・ソウルを含む125カ所で247回の公演を行い、多くの

人々に笑顔と勇気を届けました。さらに、2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨の際には、東日本大震災の支援への感謝、そ



して、何よりも被災された方へ元氣と希望を届けるため、きずなキャラバンを展開してきました。

炭鉱の危機や東日本大震災の危機を乗り越え、受け継がれてきたフラガールたちの不屈の精神。その姿に多くの方が笑顔を取り戻し、前に進む力に変えていったことでしょう。

フラガールたちが苦難のたびに紡いできた、たくさんの「絆」。これは、炭鉱時代から脈々と受け継がれてきた「一山一家」という強い団結力を表す証なのかもしれません。

そして本年、新たな活動「フラガールきずなスクール2024」が動き出しています。

県内全59市町村の各小学校1校を訪問し、東日本大震災を体験していない世代の子どもたちに向けて「生き抜く力」をテーマに、未来に向けてたくましく生きる姿勢を伝えています。

フラガール自身の東日本大震災やコロナ禍の体験をもとに、諦めない気持ちと仲間の大切さなどを伝えることで、未来を担う子どもたちに希望と力を届けています。



虹

～笑顔と愛を～



笑顔は、生きる力になる。
これは、観客だけでなく、舞台上立つフラガールたちにとっても同じことです。

新型コロナウイルスの影響によって長い期間、人や物の動きは制限され、スパリゾートハワイアンズも休館を余儀なくされました。東日本大震災に続き、またも踊る場を失ったフラガールたち。それでも、彼女たちは毎日、無観客の舞台に立ち続け、踊りの技術を磨き続けました。先が見えなくても観客の前で踊れる日が来ることを信じ、そして願い、最高の笑顔とエンターテインメントを届けるために。

フラは、まだ文字を持たなかった時代からハワイに伝わる民族舞踊。手話と同じように、振り付けの手の動き一つ一つにそれぞれ意味があり、愛や喜び、感謝などの感情を表現します。まさに、相手があつての踊りといえます。改めて痛感した、観客の前で踊れることの幸せ。観客の笑顔がフラガール自身、そしてダンシングチームとしての成長につながります。コロナ禍を経たいま、彼女たちが魅せるショーは、笑顔の大切さとかげがえのなさをより一層表現しているのではないのでしょうか。

故郷への愛。

どんな苦難が襲っても、フラガールにしかできないこと。フラガールだからこそすべきことをチーム一丸となつて考え、踊りをおして表現してきました。そんなフラガールたちの踊りは「愛」そのものです。

常磐炭鉱の危機を救ったフラガール。東日本大震災における復興の象徴となったフラガール。コロナ禍でも笑顔をお届けするため舞台に立ち続けたフラガール。その挑戦には、いつだって故郷を守るための「愛」がありました。

黒いダイヤと呼ばれ、隆盛を誇った石炭産業。あれから60年、当時、生きるためだった踊りは、さまざまな人との笑顔と絆、そして愛を紡ぐ「虹」となり、ダイヤに負けない希望の輝きで今日も地域を照らし続けています。

歴史を受け継ぎ、地域文化を築き上げた「フラガール」という物語。

新たなページがこれからも、いわきのアイデンティティーとして綴られています。



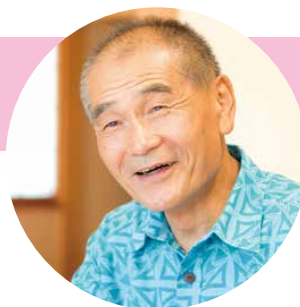


ハワイを身近に

KAUAI CAFE (泉町)

店長 菅野 誠さん

カウアイ郡といわきとの神秘的なつながりを知り、ハワイやフラを生かしたまちづくりに貢献したいと考え「カウアイカフェ」をオープンしました。ハワイという非日常的な空間で素敵な時間を過ごしてもらうため、食事はもちろん、インテリアや食器などにもこだわっています。毎月、店内でディナータイムに開催しているフラダンスショーも好評です。たくさんの方に身近なハワイとして「喜び」を提供し、フラ文化を上げていきたいです。



ハワイとの絆

いわきハワイ交流協会

会長 鈴木 常雄さん

1992年にハワイ州を直撃したハリケーン・イニキ被害への支援活動をきっかけに「カウアイ日本文化祭」へ参加するなど、カウアイ郡との交流を進めてきました。2011年の東日本大震災時には、支援のお返しをしていただき、さらに絆が深まり、2016年に国際姉妹都市締結が実現しました。



私たちの夢は、若い世代の人たちに、踊りや音楽などの文化を通して盛んな交流が生まれることです。今後も、ハワイとの交流を未来へつなげていきます。

踊るころ

特定非営利活動法人

フラガールズ甲子園

理事長 小野 英人さん



今年で12回目を迎えた「フラガールズ甲子園」。高校生たちが気持ちを一つにして自分たちの踊りを作ります。その達成感と心の豊かさが成長につながります。上手下手でなく、フラに大切なのは「踊るころ」。その心を通じ合わせることが「文化」となります。いわきの宝物とも言える「フラ文化」を皆さんとともに磨き上げ、世界へ発信し、地域の活性化につなげるための応援活動にも取り組んでまいります。



フラシテイいわき

本市の魅力により多くの方々へ知っていただく取り組み、それがシテイプロモーションです。その中心に置いているのが「フラ」であり、他の地域にはない本市だけが持つ強力な地域資源です。これを、本市のブランドとしてより一層磨き上げ、地域が一体となって育て、拡げていく。まさに、長きに渡りフラガールたちが紡ぎ、伝え続けてきた誇るべき地域資源です。

本市にとって、フラは広い世代に愛され、交流、芸術、健康、食など、多岐に渡り「文化」として根付いています。歴史が文化を形成し、文化が歴史を照らし、相互に影響し合いながら、未来を築きます。歴史と文化から生まれた「フラシテイ」というまちづくりのコンセプト。たくさんの方に愛される地域をともに創り上げていきましょう。